

編集後記

5年振りに上陸したという10月台風の余波の音を聞きながら、明日からの週末はきっと好天になるだろうなどと考えている。

明日の日曜日といえば、千葉大学整形外科の故井上駿一教授の御葬儀である。先生は、“国立大学ももう少し融通が利けば、リハビリテーションをもっと充実したい”とお会いする度に言われていた。千葉方面も次第に医療が整いつつあり、井上先生の御努力が実を結びつつあるように思っていた。道半ばにして逝かれてしまったようで、残念でならない。心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今月号の特集は「専門医への教育カリキュラム」であり、偶然にも巻頭言に田中氏の「リハビリテーション医学教育の充実に向けて」という熱のこもった一文を同時に掲載することが出来た。

特集の教育カリキュラムは、筆頭著者の全員が日本リハ医学会の専門医であり、(リハ医学会の専門医もここまで育って来たのかという感慨あり) 各々の人達の育って来た過程の御苦労が滲み出ているようである。各論文の中から拾うと「脳性麻痺のリハは、秀才のセンスでなく人間生活に密着

した泥臭さ」(岩谷氏)「脊損患者の病態生理から社会活動までを学ぶ」(今村氏)「リハ科が外来系か内科系かを論ずるのはばかげている。障害治療のために行うのであれが、どんな分野でもリハ医の分野となりうる」(土肥氏)「切断者の生涯を通じて、義肢等による機能代償を果せることを目標とする」(小池氏)「医学的リハが大切なことはいくまでもないが、社会的、家族的側面を無視してはならない。」(木村氏)このように拾ってみると、教育カリキュラムのめざすリハ医像が鮮明になって来る。諸先生ありがとうございました。

本号にはこの他2本の研究論文が掲載された。高橋氏らのものは、医学的リハ後が問われている昨今、その基礎的なデータを提供して頂いた。水落氏の論文は、見落してしまいがちな問題に光を当てたといえるだろう。両氏にはよりこれらの研究を深めて欲しいと願うものである。

また、講座、一頁講座も佳境に入った感があり、今号から新たに解説も登場した。執筆の諸氏の労苦を多としたい。

最後に、南 久雄先生おめでとう。今後とも車いすを忘れないで下さい。

(大川 嗣雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 歓
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 圀 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第15巻 第11号)

1987年11月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,650円 (配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 21,560円)
(但し、増大号を含む)
(送料弊社負担)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1987, Printed in Japan.
本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。